

県央ブロックごみ・し尿処理広域化基本構想説明会の開催結果

開催日	時 間	会 場	参加人数
平成27年10月21日(水)	19:00~20:00	彦部公民館	7人
平成27年10月22日(木)	19:00~20:00	志和公民館	5人
平成27年10月24日(土)	19:00~20:30	情報交流館大スタジオ	12人

質疑応答の概要（主なものを掲載）

質問・意見等	町のコメント
ごみ処理広域化に参加したほうが良いと思っているのはどうしてか。	紫波町の場合、広域化により1施設に集約して中間施設を設けた場合の試算結果として、経費が23%ほど削減されるという有利な点がある。
ごみ処理広域化について、町の方針を決定するのは、どこで、誰が、いつやるのか。	町が行う。
事務局は、施設を1箇所にしないと補助金を受けられなという前提で進めてきている。国、県に働きかければ、別な可能性もあるのではないか。	現施設の耐用年数から今の時期に判断しないと対応が難しくなる場面が想定されることから、現制度の下、国の補助金に乗る広域化を進めている。
広域化について、スタートしている中で変更ができるのか。	住民の声を聞いて判断していくものと考えている。
ごみ減量、リサイクルの理念に立つと、広域になると、責任、ごみの実態が見えなくなり今までの取組みが後退する危険性があるのではないか	今までのごみ減量等の取組みは後退させないという合意の下で進めている。
経費の精査に伴い構想の一部を修正したとあるが、この内容とはどういうことか。	30年間のライフサイクルコストの試算に当たり、運営費と維持管理費の算定に際し、人件費が正しく振り分けられていなかったことから修正されたものである。
施設の建設場所は、盛岡のどの辺になっているのか。	まだ定まっていない。数箇所の候補地の中から選定される。
ダイオキシンやCO ₂ が広域化になって削減されるという根拠は何か。	高性能の最新の施設となることや、CO ₂ については施設の廃熱利用による発電により、電力会社の発電量削減に貢献できるという点が削減に繋がるものである。
新ごみ焼却施設が、500t/日で、現在6施設の合計の能力が753t/日となっている。新施設の能力が落ちるが大丈夫か。	現状施設の稼働状況(100%稼働でない)や、人口減少等がごみの排出量に及ぼす影響等を考慮したものであるので、大丈夫である。
盛岡・紫波地区環境施設組合の清掃センターが、中継施設として活用されるということか。	その可能性はあるが、まだ決まっていない。
紫波町では、最終処分場がどこにあって、どれくらいの容量で、あと何年対応できるか。	紫波町の最終処分場は、盛岡・紫波地区環境施設組合の処分場となる。本施設も既に90%以上埋まっている状況であることから、過去に埋めたものを掘起し、再度燃やすことによる減容化の後、埋め戻して延命化を図っている。
各市町村でごみ処理に係る経費が違うと思うが、試算はしているのか。負担金はどうなるのか。	経費負担のことは、これから協議して決めることとなる。
収集運搬経費を市町村の負担金に反映させるに当たり、運搬距離の違いをどのように計算するのか。	まだ定まっていない。
紫波町の起債残高を考えた場合に、新焼却施設の負担金が町の他の事業に影響を及ぼさないか心配。町として今何か考えているか。	起債残高は、工夫して減らす努力をしている。バランスをみながら順番を決めて優先度が高いものから事業を行っていく。